

# 平成 31 年度春の政策協議〔個別協議〕 事業マネジメントシート及び補足資料

4月23日【戦略企画部】

施策推進において重要な課題がある取組や県民の関心の高い取組

	協議項目名	頁
1	県内高等教育機関の振興について	P1



施策227

地域と若者の未来を拓く高等教育機関の充実

【主担当部局：戦略企画部】

県民の皆さんとめざす姿

県内高等教育機関における学びの選択肢が増えるとともに、各機関における教育や研究、地域貢献の取組が充実し魅力が高まることにより、三重県で学び、働く若者が増えています。

また、県内高等教育機関と地域との連携を促進することにより、地域の課題解決に向けた取組が活発化するとともに、学生と地域との結びつきが強まっています。

平成31年度末での到達目標

県内高等教育機関における教育や研究、地域貢献の取組が充実し魅力が高まることにより、三重県で学び、働く若者が増え始めています。

また、学生を中心とした県内高等教育機関と地域との連携を促進することにより、地域の課題解決に向けた取組が活発化するとともに、地域に関心を持つ学生が増加しています。

評価結果をふまえた施策の進展度と判断理由

進展度 *	B (ある程度進んだ)	判断理由	「県民指標」については目標を達成できませんでしたが、施策全体の進展状況から「ある程度進んだ」と判断しました。
----------	----------------	------	--

【\*進展度：A（進んだ）、B（ある程度進んだ）、C（あまり進まなかった）、D（進まなかった）】

県民指標						
目標項目	27年度	28年度	29年度	30年度		31年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値
県内高等教育機関卒業生の 県内就職率 (創13)	48.9%	51.0% 48.8%	53.0% 48.9%	54.0% 48.8% 【速報値】	0.90	59.0%
目標項目の説明と平成31年度目標値の考え方						
目標項目 の説明	県内高等教育機関を卒業し就職した者のうち、県内に就職した者の割合					
31年度目標値 の考え方	県内高等教育機関と協議を行い、平成31年度に平成26年度実績から10%増の59.0%をめざすものとして設定しました。					

活動指標		27年度	28年度	29年度	30年度		31年度
基本事業	目標項目	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値
		22701 県内高等教育機関の魅力向上・充実（戦略企画部）	県内高等教育機関への県内からの入学者の増加数	/	15人	20人	100人
		0人	△48人	△28人	26人	/	
22702 県内高等教育機関と地域との連携の促進（戦略企画部）	「学生×地域活動」サポート情報局等におけるマッチング延べ人数の増加数	/	250人	700人	850人	1.00	1,000人
		0人	546人	956人	1,167人		/

(単位：百万円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算額等	53	61	40	15	13
概算人件費	/	18	27	27	/
(配置人員)	/	(2人)	(3人)	(3人)	/

#### 平成30年度の取組概要と成果、残された課題

- ①「高等教育コンソーシアムみえ」においては、学生が三重への知識・愛着等を持てるよう共同開発した「三重の歴史と文化」などの「三重を知る」共同授業を実施するとともに、学びの選択肢を拡大するため、14科目による単位互換制度を実施するなど、高等教育機関の魅力向上につながる取組を進めました。しかし、進学に伴う若者の県外流出が続いているため、県内高等教育機関の一層の魅力向上に向けた取組を進めるとともに、継続した取組となるよう、「高等教育コンソーシアムみえ」の自立的安定的な運営の確立が必要です。(創 13)
- ②県内の産業界、高等教育機関、県及び市町で構成する「みえ地方創生多分野産学官連携推進協議会」を2回開催し、産業界・大学の事例発表や意見交換を行うとともに、高等教育機関相互及び分野の枠組みを越えた情報共有などを行いました。若者から選ばれるしごとの創出や働く場の魅力向上につながる共同研究の促進など産学官の連携に取り組んでいく必要があります。(創 13)
- ③県内の地域課題に迅速かつ適切に対応し、活力のある個性豊かな地域社会を形成していくため、平成30年11月に本県と東京大学との間で連携協定を締結し、「東京大学地域未来社会連携研究機構 三重サテライト拠点」が、平成31年2月に四日市市内に設置されました。また、三重大学と東京大学の間で相互の連携及び協力を行う個別の連携協定が締結されるとともに、東京大学三重サテライト拠点と同じ施設内に、高度部材イノベーションセンター（AMIC）、三重大学北勢サテライト知的イノベーション研究センターも設置され、今後連携した取組が期待できます。今後は、東京大学と県内高等教育機関との連携により、高等教育機関の魅力向上を図ることが必要です。(創 13)
- ④大学生等の奨学金返還額の一部を助成する制度では、県政だよりやテレビ・ラジオ番組及び関係市町の広報紙などにより制度のPRに努め、支援対象者を13人認定しました。県内外の学生への更なる周知を行い、制度の一層の活用促進を図る必要があります。(創 13)

⑤県内外から留学生 27 人を含む総勢 55 人の学生が集い、第 3 回「大学生国際会議 in 三重」を紀北町、尾鷲市において開催しました。熊野古道の保全体験、林業現場の視察などを通じて現状と課題を学ぶとともに、環境問題や地域課題をテーマに討論・交流を行い、参加者の三重県への愛着を育み、成長につながる場となりました。引き続き、グローバル人材の育成の機会づくりに取り組む必要があります。

⑥学生の地域活動への参加促進のため、「学生×地域活動」サポート情報局を中心に地域と学生のマッチングに取り組むとともに、複数の高等教育機関と協働して、学生が取り組みやすい地域活動イベントを実施しました。引き続き、学生の地域活動への参加促進に取り組む必要があります。

(創 13)

平成 31 年春における県内高等教育機関の卒業生の県内就職率は、48.8%と目標に達しておらず、若者の県内定着について厳しい状況が続いています。中京地域の経済状況が活況である中、近接県の中には、本県以上に有効求人倍率が高水準で推移している県もあり、県内高等教育機関においても県外企業からの求人が多い傾向となっており、県内就職率は横ばいの状況が続いています。若者の県内定着に向け、引き続き県内高等教育機関と連携して、県内高等教育機関の魅力向上や学生に対する県内企業の魅力発信などに取り組む必要があります。

## 平成 31 年度の実行方針

【戦略企画部 副部長兼ひとづくり政策総括監 横田 浩一 電話：059-224-2009】

○①三重で学び、働く若者を増やすため、県内高等教育機関の一層の魅力向上や学びの選択肢の拡大等について、県内高等教育機関等の関係者とともに検討を進めていきます。また、県内高等教育機関の連携による取組を進めるため、「高等教育コンソーシアムみえ」の自立的安定的な運営に向けた取組を支援します。

(創 13)

②「みえ地方創生多分野産学官連携推進協議会」で構築していくネットワークを活用して、高等教育機関に蓄積されている研究成果、県内企業のニーズなどの情報を共有し、ものづくり産業、農林水産業、医療・福祉などの分野の枠組みを越えた共同研究等のマッチングの仕組みづくりを行っていきます。

(創 13)

③県内高等教育機関と東京大学との連携を促進し、共同研究や地域の産業人材育成などにより県内高等教育機関の魅力向上につなげていきます。

(創 13)

○④大学生等の奨学金返還額の一部を助成する制度について、県内外の学生や保護者に対して一層の周知を図ります。また、現行制度は平成 31 年度（2019 年度）までの事業であり、高等教育の無償化や奨学金をめぐる国、企業などの状況等もふまえ、2020 年度以降の方向性について検討します。

(創 13)

⑤県内外の留学生を含む学生が、地域を知り、グローバルな視点から地域の課題を考える機会とするため、「大学生国際会議 in 三重」を開催します。

⑥「高等教育コンソーシアムみえ」の取組等を通じて、学生の地域活動への参画を支援していきます。

(創 13)

\* 「○」のついた項目は、平成 31 年度に特に注力するポイントを示しています。

\* 「創 番号」のついた項目は、「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な取組方向のめざす姿の達成に資する主な取組であり、検証レポートにも記載しています。

### 【3年間の取組の振り返りをふまえた今後の施策の方向性】

・県内 14 の高等教育機関と県で構成する「高等教育コンソーシアムみえ」の設置により高等教育機関相互に連携できる体制が構築されたことや、学生の確保や県内定着促進等に向けた取組を行う高等教育機関独自の取組に対して支援した結果、「三重を知る」共同授業の実施、単位互換などによる高等教育機関の魅力向上や各高等教育機関における入学生の確保、学生の県内就職、地域連携などの取組が進んできました。

・大学生等の奨学金返還額の一部を助成する事業により、平成 28～30 年度までの 3 年間で 40 名を支援対象者として認定し、過疎・準過疎地域等の条件不利地域への若者の定着を促進しました。

・また、「学生×地域活動」サポート情報局によるマッチングの取組や、県内高等教育機関において地域活動を促進する授業、イベント、仕組みづくりなどにより活動指標が目標を上回るなど、学生の地域活動への参画促進につながりました。

・若者の県内定着を促進するため、今後も引き続き、県内外の高等教育機関、産業界、地域との連携の促進や県内高等教育機関の魅力向上、大学生等の奨学金返還額を助成する事業の方向性について検討するとともに、国における大学改革の動向等もふまえ、中長期的な視点から魅力向上や学びの選択肢拡大につながる県内高等教育機関の振興に取り組む必要があります。

平成 31 年度春の政策協議〔個別協議〕  
組織マネジメントシート

4月23日【戦略企画部】

	対 象 者	頁
1	戦略企画部長	P 1
2	東京事務所長	P 1 1





# 平成31年度 戦略企画部長 組織マネジメントシート

## 1 所属の業務計画

<b>使命・存在目的</b>	<p>「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を、アクティブ・シチズンである県民の皆さん等と力を合わせて実現するために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 県政のトップマネジメント機能の補佐</li> <li>② 社会情勢の変化をふまえた企画・政策提言</li> <li>③ 「県民力による協創の三重づくり」を進めるための広聴広報に取り組みます。</li> </ul>
----------------	---

※ 所属の所管業務について、重点的に取り組む業務に関する当該年度の実施計画を記載します。

業務名	取組内容・目標	中間	期末	重点
1 政策の総合的な推進 みえ県民力ビジョン・第二次行動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「幸福実感日本一」をめざし、「新しい豊かさ」を享受できる三重づくりを進めるための、みえ県民力ビジョン・第二次行動計画の総括と次期行動計画の策定</li> <li>・ 「県民指標」の目標値を達成した施策が全施策に占める割合 …… 70.0%</li> <li>・ 次期行動計画の策定</li> </ul>			
三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人口減少の課題に的確に対応し、地域の自立かつ持続的な活性化を図る「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の総括と次期戦略の策定</li> <li>・ 県外への転出超過数の減少 …… 2019年度の転出超過数を1,600人にまで改善</li> <li>・ 次期総合戦略の策定</li> </ul>			
平和啓発の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 被爆地との交流などを通じて、幅広い県民に平和への想いを一層深めてもらう機会を作るなど、平和に関する啓発活動に取り組む。</li> <li>・ 未来を担う若い世代の参画を得て「平和に関する企画展」を開催</li> </ul>			

<p>2 人づくり 政策の推進 高等教育機関 の充実</p>	<p>○若者の県内定着の促進に向けた、高等教育機関の魅力向上と地域との連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内高等教育機関卒業生の県内就職率 … 59.0%</li> <li>・高等教育機関と協力し、「高等教育コンソーシアムみえ」の一員として、その取組と運営を支援するとともに、自立的安定的な運営に向けた取組を促進</li> <li>・「三重県地域と若者の未来を拓く学生奨学金返還支援事業」の制度見直し</li> </ul>			
<p>大学生版サミット</p>	<p>○伊勢志摩サミットの成果を生かし、グローバル人材を育成するとともに、三重固有の体験や地域課題についての討議を通じて三重県ファンをつくることなどを目的とした、大学生版サミットの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・G7各国等の留学生の参加を得て、秋に開催</li> </ul>			
<p>総合教育会議</p>	<p>○知事部局と教育委員会が人づくり政策の方向性を共有し、連携して取り組むための総合教育会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合教育会議の開催（7回）</li> </ul>			
<p>教育施策大綱</p>	<p>○次期の「三重県教育施策大綱」の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「三重県教育施策大綱」の策定</li> </ul>			
<p>3 政策提言・政策形成 支援 国への政策提言と広域連携 の推進</p>	<p>○社会情勢の変化や国・他府県の政策動向等を常に把握し、地域の課題解決に向けた積極的な提言や連携取組を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに具体的な連携取組を開始した事業数 … 10事業</li> <li>・国への政策提言内容の実現</li> </ul>			

職員の政策形成能力の向上	○庁内職員の政策形成能力の向上に向けた支援や調査研究等の実施 ・若手・中堅職員養成塾の開催と政策創造員会議による調査研究の実施			
統計情報の効果的な発信と活用の促進	○統計調査の円滑な実施及び調査結果の分かりやすい公表と、データ利用の促進 ・統計情報利用件数(みえDataBox アクセス件数)・・・ 86.5万件			
4 広聴広報の充実				
効果的な情報発信と広聴機能の充実	○県に対する共感と信頼、県政への積極的な参画を得るための、「県民との接点の拡大と充実」に向けた広聴広報活動の展開 ・得たいと思う県情報が得られていると感じる県民の割合・・・ 50.0% ・「三重県広聴広報アクションプラン(改訂版)」の策定			
情報公開・個人情報保護	○条例に基づく情報公開制度の適切な運用と個人情報の保護の支援 ・公文書や個人情報の開示決定等における開示・非開示判断の適正度・・・0.5%以下 ・情報公開制度研修会の内容を理解できたと受講者アンケートに回答した職員の割合 ・・・ 95%			
進捗管理	中間		期末	
成果と残された課題				
改善のポイントと取組方向				

## 2 運営計画（経営方針行動指針の実践取組）

運営ビジョン	<p>平成 31 年度の部運営にあたっては、日頃からの職員とのコミュニケーションにより、経営方針の「職員の業務遂行にあたっての行動指針 ～五つの心得～」を部内職員に浸透させつつ、「みえ県民力ビジョン」に定める県政運営の3つの基本姿勢に基づき、以下の点を重視して取り組みます。</p> <p>特に「心得4：県庁全体の組織力と職員力の磨き上げ」に掲げられている「話し合い、磨き合い、支え合い」の職場づくりに留意し、一人ひとりの職員が仕事を抱えこまず、組織として取り組むように呼びかけます。</p>
	<p>1 県民との「協創」の取組を進めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○県内高等教育機関との協働などによる地域課題解決の取組の推進</li> <li>○県政への県民参画を促すための広聴広報、情報提供・情報公開の推進</li> </ul> <p>2 県民に成果を届けるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○広聴機能の充実による県民ニーズの把握と県政への反映</li> <li>○県民の皆さんにとっての成果を見据えた近隣府県等との連携</li> <li>○三重で学ぶ人の輝く未来を拓く教育・人づくり政策の総合的な推進</li> </ul> <p>3 県民の信頼をより高めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○職員のコンプライアンスの徹底</li> <li>○企画・政策提言機能の充実に向けた職員力の向上</li> <li>○職員の情報発信力・情報収集力の向上</li> <li>○EBPMIに向けた統計の利活用の推進</li> <li>○業務の効率性や効果を高めるための不断の業務改善の実施</li> <li>○職員のワーク・ライフ・マネジメントの推進</li> <li>○職員の人権、危機管理に対する意識の向上</li> </ul>

### (1) コンプライアンスの徹底

区分	取組内容・目標	中間	期末	重点
高い倫理意識の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○戦略企画部は、県政のビジョン実現を担う部としての自覚と責任感のもと、職員それぞれがコンプライアンスを自分事として理解し、その徹底の取組を先導することができるよう、一人ひとりの意識啓発を進めます。</li> <li>・各所属のコンプライアンスミーティングを、独自の業務に関連する事例や身近な事例を活用して実施</li> <li>・職員一人ひとりのコンプライアンスの徹底にかかる取組状況等について、中間面談、期末面談において確認することをルール化</li> <li>・コンプライアンスについて、部内管理職がリレー形式でメールマガジンを発行（月2回）</li> </ul>			5

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンスに関する新たな事例の情報は、課長会議において速やかに情報を共有して、各所属に水平展開し、他山の石として発生防止に努める。</li> </ul>			
適切な事務処理の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員が仕事を抱え込まず、組織的に業務を進めていくために、所属全体で業務配分や進捗状況を確認するとともに、職員が仕事のことだけでなく悩みを相談できる風通しのよい職場環境を醸成します。</li> <li>・部内課長補佐・班長とのオフサイトミーティングや、所属単位での定例ミーティング等を実施</li> <li>・業務や職員の状況に応じて、年度内であっても柔軟な事務分掌の変更を実施</li> <li>・所属長、班長等による所属職員への「声掛け」の実施</li> <li>○過失によるミスは、常に起こり得ることを念頭に置き、組織としてミスを未然に防止する体制を構築します。</li> <li>・契約事務の一連の流れをチェックリスト化し、業務の標準化を図る。</li> <li>・文書事務、会計処理等で主務者と副務者のダブルチェックの徹底</li> <li>・庁外に発出する印刷物は、担当班長等を中心にしたチェック体制を構築し、完成前の各段階において複数人による精査の徹底</li> <li>・他部局からの情報、原稿等を活用している場合は、関係部局にも協力依頼し、チェック体制の連携強化を図る。</li> </ul>			
進捗管理	中間	期末		
成果と残された課題				
改善のポイントと取組方向				

(2) 職員力・組織力の向上

区分	取組内容・目標	中間	期末	重点
<p>職員の 能力開発</p>	<p>○時代や状況の変化に対応した政策を立案実施出来るよう職員の政策形成能力の向上を図ります。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに戦略企画部に転任してきた職員にオリエンテーションを実施</li> <li>・政策創造員会議等による職員からの新たな政策提案の促進</li> <li>・管理職員の間で政策立案、展開等に関する創造的な意見交換を行う。</li> </ul> <p>○「研修」に参加しやすい職場環境づくりをめざし、職員を「知の探索」に誘います。所属長は業務に関連する研修情報を随時提供し、中間および期末の面談において職員の自主的な取組を促します。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修・学習会等（業務内外、公私は問わない）への参加回数：各職員2回／年</li> </ul>			
<p>チームワーク の向上や職員 の意欲の増進</p>	<p>○「風通しの良い職場づくり」の一環として、管理職及び一般職員の間で部内のコミュニケーションを深める機会を充実させます。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週1回課長会議(毎週火曜日)を開催</li> <li>・部内管理職全員をメンバーとする拡大課長会議を年4回開催し、部内マネジメントや政策展開等についての意見交換を行う。</li> <li>・新採職員(1・2年目)や、若手職員とのオフサイトミーティングを年数回実施し部内のコミュニケーションを深める。</li> <li>・課長補佐・班長とのオフサイトミーティングを複数回開催し、マネジメントや業務(政策)について意見交換を行う。</li> </ul> <p>○連続休暇が取得しやすい職場環境づくりをめざし、職員の意欲の向上を図ります。</p>			

	<b>【目標】</b> ・プチ・バカンス（＝土日祝を含め連続5日間以上、GW、年末年始を除く）の取得率：60% ・「日本一、働きやすい県庁(しょくば)アンケート」において、全ての項目で全庁平均を上回るとともに、部の満足度を、対前年度実績（61.30）以上にする。			
<b>進捗管理</b>	<b>中間</b>	<b>期末</b>		
<b>成果と残された課題</b>				
<b>改善のポイントと取組方向</b>				

### (3) 業務改善等の推進

区分	取組内容 目標	中間	期末	重点
ワーク・ライフ・マネジメントの推進	<p>○時間外勤務の縮減、年次有給休暇の取得促進等により、職員の自己実現や創造的な仕事につながる自己啓発、社会活動への参加等を促すなど、「家庭人」や「地域人」としての生き方を大切にします。</p> <p>○ワーク・ライフ・マネジメントのための&lt;戦略企画部3つの取組&gt;を実施します。</p> <p>① 原則、毎月第3水曜日をライトダウンデーとし、18時に消灯します。</p> <p>② 早朝深夜（22時～6時）、休日の時間外勤務は「原則禁止」とします。</p> <p>③ ノー残業デー（水曜日・金曜日）には定時退庁を基本とし、加えて時間休なども活用して早期退庁を目指します。</p> <p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人あたりの時間外勤務時間 H31 最終目標数値（162時間） （H30 実績 190時間→15%削減）</li> <li>・超長時間勤務者は一人も出さない H30 実績から皆減（5名→0名）</li> </ul>			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外勤務実績について、毎月、課および班単位でモニタリングを実施し、課長、班長のマネジメントを支援</li> <li>・1人あたりの年休取得時間 H31 最終目標数値 (115 時間) (H30 実績 106 時間→8%増加)</li> <li>・夏季休暇取得率 100%</li> <li>・男性職員の育児参加休暇取得率 100%</li> <li>・男性職員の育児休業取得率 25%</li> </ul> <p>○子育てや介護等を部内で応援・サポートしあう環境づくりを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに子どもが生まれた職員には父子手帳を配付し、男性の育児参画意識の強化を図ります。</li> </ul>			
<p>協創・現場重視の推進</p>	<p>○高等教育機関との協働や、県政への県民参画を促すための広聴広報など、関係業務において協創の取組を進めるとともに、職員一人ひとりが様々な形で社会に関わる「地域人」としての生き方を大切にするよう呼びかけを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部内会議等での呼びかけの実施</li> </ul>			
<p>県民サービス・事業効果等の向上</p>	<p>○良質な情報提供の実現、三重県ファンの創造・拡大のため、魅力ある情報、受け手にとってわかりやすい情報の発信を計画的に行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発信力があり、県民にとって、必要な情報をわかりやすく提供できる Web ページの整備</li> <li>部ホームページの点検・見直し 年複数回</li> </ul> <p>○出前トークに積極的に対応し、県民への分かりやすい情報提供を促します。</p>			



	<p>○既存の業務について、量的削減及び質的見直しの両面から、全庁的な影響も視野に入れ再検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各所属 1 件以上職員カアワードへ応募する。</li> </ul> <p>○人権、環境配慮への意識の高い職場風土づくりを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全庁での人権研修とともに、各所属で人権研修を実施し、人権意識の更なる向上を図る。</li> <li>・地球環境に配慮したコピー用紙削減（H30 実績以下）、節電の取組徹底</li> <li>・庁内会議、協議等でカラー印刷・コピーは、原則、使用しない。</li> </ul>			
危機管理	<p>○職員の危機管理意識・対応力の向上を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部の各種危機管理マニュアルの周知</li> <li>・危機管理意識向上研修の実施</li> <li>・広聴広報課等におけるマニュアル訓練の実施</li> </ul>			
進捗管理	中間	期末		
成果と残された課題				
改善のポイントと取組方向				



# 平成31年度 東京事務所長 組織マネジメントシート

## 1 業務計画

### 使命・存在目的

- 新しい時代と東京オリパラを見据え、政・官・民のネットワークや交流をさらに充実・拡大し、これを活用して県政に必要な生きた情報の収集を行い、各部署の政策・施策の実現をサポートします。また、そのための人材を育成します。
- 首都圏営業拠点「三重テラス」、移住相談窓口「ええとこやんか三重」等と連携・協力し、相乗的な三重の魅力発信に努め、首都圏における三重県への観光誘客、県産品等の販路拡大、移住促進、企業誘致などにつなげます。
- 来所者や電話等の問い合わせに対して親切・丁寧・スピーディーな対応を行い、三重県に行ってみたくて思ってもらえるように働きかけます。

※ 所管業務について、重点的に取り組む業務に関する当該年度の実施計画を記載します。

業務名	取組内容・目標	中間	期末	重点
三重の魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「三重テラス」、「ええとこやんか三重」等と連携・協力した首都圏における情報発信等を実施します。</li> <li>・メールマガジン(チャンネル三重)の配信</li> <li>・ホームページ、Facebookの適時更新</li> <li>・三重テラス等と連携した営業活動(真珠講座の開催等)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○三重県ゆかりの方々との交流・連携を進めます。</li> <li>・5月 三重くらぶの開催</li> <li>・10月 東京三重県人会大会の実施</li> </ul>			
国等の情報の収集提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい時代を見据え、政・官・民のネットワークの充実・拡大とネットワークを活用した情報収集を行い、各部署の政策形成につながる情報を提供します。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国の政策の動向、予算などの情報に加え、東京オリパラに関する国や民間の動きなどの情報を収集し、各部署へ提供することで県の政策形成や情報発信に寄与します。</li> </ul>			
首都圏での知事等の活動サポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国知事会での活動や国への政策提言、首都圏での情報発信、営業活動及びイベント・行事など知事等の諸活動の調整・充実をはかります。</li> </ul>			
市町の活動サポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県内市町の東京での活動や、市町が必要とする情報の収集・情報提供についてサポートします。</li> </ul>			
県選出国会議員との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三重県の情報タイムリーに提供し、県政に関わる事業説明等を行うとともに、日頃から県選出国会議員と連携を密にし、国等への提言内容の実現に努めます。</li> </ul>			

進捗管理	中間	期末
成果と残された課題		
改善のポイントと取組方向		

## 2 運営計画（経営方針行動指針の実践取組）

運営ビジョン	<p>①一人ひとりが自立した社会人としての規範意識、倫理意識を高めることを徹底するとともに、風通しが良く、チャレンジする気持ちを大切にする職場づくりを進めます。</p> <p>②東京で活動する三重県職員として、政治情勢・社会状況に対応できるよう感性を高めま</p> <p>す。</p> <p>③県庁各部局の政策を把握し、その実現につながるよう意識して、各省庁等からの情報収集力を高めま</p> <p>す。</p> <p>④戦略企画部の一組織としてではなく、県庁すべてを意識し、事務所全体のチームワークを大切に</p> <p>し、スピード感を持って業務に当たります。</p> <p>⑤想像力と創造力を持って、新しい業務に挑戦するとともに、常に業務を見直します。</p>
--------	---

### (1) コンプライアンスの徹底

区分	取組内容・目標	中間	期末	重点
高い倫理意識の確保	<p>○所内ミーティングの機会等を利用し、コンプライアンスに関する新たな事例の共有・討論など所内研修を実施します。</p> <p>○日々の声掛けを通じ、自分事としての倫理意識の維持・向上を図ります。</p> <p>○行事や会議でお世話になった方へは、後日お礼を述べるなど、礼節を重んじ、より良い関係性の構築を図ります。</p> <p>○業務外の懇親会等では公私をわきまえて行動します。</p> <p>○職員一人ひとりのコンプライアンスへの取組状況等を面談時に確認します。</p>			
適切な事務処理の実施	<p>○重要な会議や行事は、時間・場所・行程などを確実に確認するなどし、事前の段取を徹底します。</p> <p>○メールマガジンや HP、会計処理等の事務においてミス等の未然防止を図ります。</p> <p>・文書事務、会計処理等で主務者と副務者のダブルチェックの徹底</p> <p>・特に、メールマガジンや HP など事務所外に発出するものについて、事務所全体でのチェック体制を整えるとともに定期的に内容を確認</p>			

進捗管理	中間	期末
成果と残された課題		
改善のポイントと取組方向		

(2) 職員力・組織力の向上

区分	取組内容・目標	中間	期末	重点
職員の 能力開発	<p>○東京で活動する三重県職員として、政治情勢・社会状況に対応できるよう感性を高めます。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究機関、大学、省庁、民間企業等が実施する研修会等への参加：1人8回</li> <li>・参加した研修会のポイントを職員が講師になって所内研修を実施：12回</li> </ul>			
チームワークの向上や職員の意欲の増進	<p>○一人ひとりが持っている有益な情報や困りごとを共有し、「我が事」として行動する、cbv gl, チームワークを大切にしたい働きやすい職場づくりを進めます。</p> <p>○職員の連携を深めるため、業務や行事等の情報を共有します。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三重テラス、ええとこやんか三重、企業誘致推進課東京駐在も含めた所内ミーティングの開催（毎週）</li> </ul> <p>○目標や課題に対する業務運営状況、達成度、成果の確認を行います。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上半期、第3四半期、年度末に所内業務全体を点検とりまとめ。</li> </ul> <p>○連続休暇が取得しやすい職場環境づくりをめざし、職員の意欲の向上を図ります。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プチ・バカンス（＝土日祝を含め連続5日間以上、除. GW、年末年始）の取得率：60%</li> </ul>			
進捗管理	中間	期末		
成果と残された課題				
改善のポイントと取組方向				

(3) 業務改善等の推進

区分	取組内容 目標	中間	期末	重点
ワーク・ ライフ・ マネジメントの 推進	<p>○業務プロセス改善、効率的なタイムマネジメントにより時間外を削減するとともにライフに係る時間確保を支援し、休暇取得を促進します。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝のミーティングで各職員の業務を共有（時間外勤務の必要性の確認や休暇の調整）</li> <li>・時間外勤務時間の縮減 (H31 目標：1人当たり7.5時間以内)</li> <li>・年次有給休暇取得促進 (H31 目標：1人当たり13.3時間以上)</li> <li>・男性職員の育児参加の促進</li> </ul>			
協創・現場 重視の推進	<p>○様々な主体との協創を促進するためにはまず相手を理解することが重要であることから、現場に出向き相手と対話する機会を多く持つように努めます。 県の業務に関連する民間企業や他県東京事務所との連携も考えながら業務を進めます。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所ミーティングで体験事例の共有</li> </ul>			
県民サービス・ 事業効果等の向 上	<p>○来訪者の方にさわやかで丁寧な対応ができるよう努めます。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の実施</li> <li>・来訪者や電話の問い合わせを記録</li> </ul>			
危機管理	<p>○「三重県東京事務所リスクマネジメント・危機管理マニュアル」「東京事務所不測の事態等対応マニュアル」を実践します。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルの見直し</li> <li>・テーブル訓練の実施</li> <li>・休日であっても首都圏に職員が不在にならないよう調整を実施</li> <li>・業務マニュアルの見直し</li> </ul>			
進捗管理	中間	期末		
成果と残された課題				
改善のポイントと取組方向				